ができました。

本日は、警察の業務に対する忌憚のない御意見をお聞かせ願いたいと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

4 業務説明

(1) 警務課

警察相談では、特に関東で強盗など凶悪事件が続発していることから、不審者の徘徊や訪問販売に来た者が不審であった等の相談が増加している。

(2) 生活安全課

- ・ 駅周辺で自転車の盗難被害が多発したため、様々な取組を行い、被害防止効果が現れ始めている。
- ・ 管内でもニセ電話詐欺の被害が発生しているため、警察本部と連携し、さらに被害の未然防止に向けた広報に力を入れて行く。
- ・ 「少年の再非行防止と立ち直り支援」の一環として稲刈り体験等を実施した。

(3) 地域課

- ・ 全県下で110番通報件数が昨年と比べ多くなっている。
- ・ この度警察学校を卒業した新任警察官が三田川交番で勤務しており、早く一人前の警察官になることを目指して邁進している。

(4) 刑事課

- ・ 犯罪検挙件数は、昨年同期と比較し、若干増加している。
- ・ 年末に向けて、刑事課を中心とし犯罪検挙活動の強化を図る。
- ・ ニセ電話詐欺等の被害が管内でも発生している。

(5) 交通課

- ・ 昨年人口1万人あたりの県内市町別の人身交通事故発生率が「神埼市がワースト1」「吉野ヶ里町がワースト2」であったが、様々な取組を行ったことから、その抑止効果が現れ始めている。
- ・ 管内では、昨年来、交通死亡事故の発生はなかったが、今年（11月）になって交通死亡事故が発生した。
- ・ 県下では、昨年に比べ死亡事故が非常に多く発生している。
特に年末は、交通事故が多発する傾向があるため、更に交通事故抑止活動を推進する必要がある。

(6) 警備課

- ・ 国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会の開催に伴って、警衛警備等を実施した。
- ・ 各種警備、要人警護、災害などに的確に対応できるように、諸準備を進めている。

5 協議

(1) 質疑応答

委員： 立ち直り支援についての説明があったが、参加する人はどのような人で、どのように募集しているのか。

警察： 警察本部少年サポートセンターで支援を行っている少年やその

家族を対象としており、今回は3家族10名が参加した。

委員： なぜ神埼警察署の管内で行われたのか。

警察： 管内に居住する少年補導員の協力を得て、御自身の田んぼの稲刈りの機会を提供してもらった。

委員： とても良い取組だと思う。

委員： 先日、三田川交番に電話を掛けたところ、警察署に繋がった。交番や駐在所に直接電話を掛けることはできないのか。

警察： 交番や駐在所は、パトロールなどで不在になることが多く、緊急の届出などを電話で直ちに受けられずに対応が遅くなる。

このため、一時的に警察署で電話を受け付け、交番の勤務員に取り次いだり、不在であれば用件を聴取するなどし、適切に対応している。

(2) 諮問

県警察本部が実施した「交通安全に関する県民アンケート」を分析すると、交通安全に関する県民の意識の向上を強力に図って行かなければならない状況であった。

そこで、神埼市民・吉野ヶ里町民の皆さんの交通安全意識の向上を図り、交通事故抑止に資するため、

- ハンドサイン横断の実践率向上方策
- 高齢者の反射材着用率向上方策
- 自転車ヘルメット着用率向上方策

の3点について諮問する。

警察： 横断歩道でハンドサインを出して横断する人が少ない。子供はよく手を上げているが、高齢者は非常に少ないようだ。

委員： 年齢が上がるにつれて、手を上げることがなんとなく恥ずかしくなってくる。

警察： 大きく手を上げなくても、前に掌を差し出す、ドライバーと視線を合わせるなどの方法がある。

委員： 反射材を着用せずに歩いている人はとても多く、夜間に車を運転していて、歩行者の直前で気づき、驚くことが多い。特に夜間にランニングをしている人は、必ず付けるべきと思う。

警察から反射材をよく貰うが、身近な商店でも販売して欲しいと思う。

警察： 警察では、交通安全のキャンペーンや交通安全講話などの機会を捉えて、反射タスキをはじめ各種の反射材グッズを配布している。他には、警察官が夜間に反射材未着用の歩行者に声を掛け、反射材を配布して使用を促すなどしており、配布する時は、反射タスキをその場で肩にかけてもらうなど、一歩踏み込んだ指導を行っている。

反射材はホームセンター等で販売されているが、反射材の着用が普及して需要が増えれば、様々な商店での取扱いが期待できる。

委員： 運転免許証の更新の際に反射タスキを配布してはどうか。

警察： 良い意見なので、警察本部（運転免許課等）に伝える。

委員： 中学生は自転車に乗るときに、ヘルメットを着用することを校則で義務づけているようだが、ヘルメットを着用している高校生はほとんどいないようだ。

高校生も中学生のように義務化することはできないか。

警察： 警察本部から佐賀県教育委員会へ高校生のヘルメットの着用を促すように要望している。

管内の高校には、スタントマンが交通事故を再現する「スクエアドストレート」による教養を行って交通事故の危険を身近に感じてもらったり、「かっこいいヘルメット」のキャンペーンを実施するなどして、高校生へのヘルメットの着用を促す活動を行っている。

委員： 高校に入学する際に「かっこいいヘルメットを斡旋する」などの取組を行って欲しい。

等活発な意見交換がおこなわれた。

6 公安委員会委員講評

神埼署連絡協議会に参加して、

自身の住む場所の警察活動に関心を持つことが大切であると強く感じた。

生活していく上で、安全安心に関する改善点があれば、神埼警察署とよく話し合い、解決策を考えることが大切である。

諮問された「交通安全に関する県民アンケート」を踏まえた交通安全意識の向上方策については、

- ・ 先ず県民一人一人が意識すること
- ・ 広報の内容と効果を理解すること
- ・ 身近に感じ「そうだな」と自身が納得すること

が必要であると感じた。

6 その他

次回開催は、令和7年2月を予定

7 閉会